

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈中・22〉 いわき市立小名浜第一中学校
〈実施日〉	平成27年 9月 14日 (月)
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他 ()
〈実践内容〉	○ 放射線利用と弊害を調べ、放射線から身を守ろう 1. 導入 ① 放射線に関する事前アンケートの結果を提示する。 ② 放射線の基礎知識(名称、単位)について確認する。 2. 展開 ① 自然放射線と人工放射線による健康への影響について、資料や副読本から読み取る。 ② 放射線の被ばく量と健康について、資料から調べた事を班ごとに発表し、理解を深める。 ③ 放射線の利用例や健康への影響に関するDVDを見る。 3. 終末 ① 放射線から身を守るためにはどうしたらよいか考える。 ② パソコンを使用した紙芝居(環境省:除染情報プラザHPより)を通して、本時のまとめをする。 ○ 自然にある放射線やX線検査など日常微量の放射線を受けていること。 ○ 放射線を受ける量はできるだけ少なくすることが大切であり、除染活動が行われていること。
〈成果〉	○ 本学級では事前アンケートを実施しており、放射線の性質等についておおむね理解している生徒は6割いたが、それらについて説明はできないと感じている生徒は8割と多かった。今回の授業では、事前アンケートやデジタル教材を活用することで生徒の興味・関心が高まり、グループによる調べ学習の形態をとることにより、放射線と健康について理解し合うことができた。
〈課題〉	○ 放射線の基礎知識について教えたが、具体的に学校にある放射線測定器の数値から年間の被ばく量がどのくらいになるのか、生徒の日常生活で身近に関係している内容を伝えられると生徒の関心や理解がより深まると考えられる。
資料作成担当者職(教諭)氏名	(相山 陽祐)
学校電話番号	(54-3636)